

# 人口減少時代における大学の役割

日本は、「少子化」の加速が止まらず、2023年は戦後最低となる72万6千人となる見込みです。加えて、全国の私立大学で入学者定員が下回る大学が53.3%と半数を超えています。大学の進学率は、2023年には57.7%となり大学での学びへの期待が大きいことを示しています。

こうした少子化の中で、大学は18歳人口を対象とするだけでなく、4年間という一貫教育からリスクリング、単位制、社会人専門人材育成など多様なあり方が求められています。

本セミナーでは、急激な少子化時代における大学の役割を考えます。

## ●基調講演(30分)

文部科学大臣 盛山 正仁氏



## ●パネルディスカッション(95分)

パネラー

- ・伊藤学司氏 文部科学省文部科学戦略官
- ・廣瀬克哉氏 法政大学総長
- ・足立基浩氏 和歌山大学副学長
- ・御園慎一郎 地域活性学会会長

コーディネーター

- ・関幸子 地域活性学会 関東支部長(東洋大学客員教授)

日時 2024年3月21日(木)

18時00分ー20時10分(開場 17時20分)

会場 法政大学市ヶ谷キャンパス

申込アドレス <https://forms.gle/Zj3qGeR9VCd1KmB79>

無料

会場定員100人 WEB参加100人



主催:地域活性学会 関東支部／官民パートナーシップ研究部会

共催:法政大学地域研究センター

後援:文部科学省(申請中)